

『駅伝走者として』

岡山市国公立幼稚園PTA連合会会長 佐藤真治

市幼P連の役員会で、ある役員さんが、PTA役員は、「短距離走者だと思っていたが、駅伝走者だったんだ」という趣旨の発言をされ、そのフレーズが気に入って、単P、ブロック、市幼P連の各場面で、使わせて頂いている。とりわけ、期間が短い幼稚園においては、PTAの役員が、単年度で交替するケースが多いので、即効性のない事業については、その効果は、自分たちの子どもには、たちまち見出せない場合も、往々にしてある。あるいは、むしろ翌年度の子ども達のために行う事業もあり、寛容な「順送り」の発想が必要である。例えば、今年度のPTA活動が成功であったか否かは、むしろ、メンバー構成が全く異なる次年度のPTA役員さんが、しっかりと引き継いでくれるか否かにかかっている。また、バトンを渡したからには、それは、次年度のものである。併走することができないからこそ、「思い」を伝えて、バトンタッチしなくてはいけないのである。我々は、この区間を任された駅伝走者として、区間新記録を出すような勢いと、熱い「思い」を持って、バトンを次年度に譲る。明日の子ども達のために。